

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	0373200328
法人名	株式会社 結愛サービス公社
事業所名	一戸町高齢者グループホーム
所在地	岩手県二戸郡一戸町一戸字田中72番地1 (電 話) 0195-31-1235

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年1月24日	評価確定日	3月4日

【情報提供票より】(19 年 11 月 25 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低 75 歳	最高 89 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	県立一戸町病院 、 小野寺内科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

●当グループホームは、町の第三セクターである株式会社結愛サービス公社の他事業所と共に同じ敷地内に立地し、福祉・保健施設が全て敷地内にあることで連携が取りやすい。また一戸町保健センターとも隣接しており各方面との連携体制が充実している。 ●県立一戸病院が隣接し、医療面でも利用者の健康管理上恵まれている。 ●グループホームの立地場所は民家から離れているため、地元自治会(町内会)等との交流が希薄に思われるが、それを克服しようとする職員の意欲は見られる。 ●職員の質の向上のために会社(公社)の職員研修への全面的な支援が見られ、それに応えようとする職員の姿勢を感じた。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における指摘事項は、会社全体としても社長まで報告し、グループホームとしても改善のための職員による検討会を持って改善に向けて、マニュアル作成や具体的な取り組みに努めており、その状況も確認できた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価の意義について全職員が理解し、自己点検の実施を行い、日常業務を振り返り評価に結び付けている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議にはグループホームの状況報告に対して委員からの意見、要望を求めており、その中で地域の消防、警察などの協力について内容を活かした例もある。会議の開催回数が年4回ほどあり、もっと多い回数と内容的には委員の意見や要望をもっと引き出す方向になることが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の意見等は玄関の意見箱や家族の来所時に、とりわけ年3回の家族参加の行事の折に求めるようにしている。そこで出て来た家族の意見・要望についてはスタッフで検討し、その対応と取り組みを共有しながら実践しているし、家族への報告も前述した家族の来訪時、家族参加の行事や、電話など諸々の機会に行っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	民家が離れているため自治会(町内会)との結びつきが薄いのが実情である。これはグループホームの立地する場に起因すると思われるが今後の課題として取り組まれることに期待したい。系列のケアハウスやコミュニティセンターの催し、町の祭り等には出向いている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	株式会社 結愛サービス公社の経営理念である「安希貢信豊」(あんきこうしんとう)・安全、希望、貢献、信頼、豊かなる人生を掲げている。	○	会社の理念は前提として踏まえておくことは大切だが、地域密着型と考える時、今回の調査に際し示された「情報提供票」の2)事業の目的及び運営の方針で述べられている内容がグループホームとしての直接的な理念になるのではと考えられる。職員全員で再検討し、グループホームの理念を作り上げることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	公社の理念を掲示すると共に、毎朝唱和することによって共有化を図っている。	○	前項と深く関連するが独自の理念を確認しそれを共有することに期待したい。実施している内容は今まで通りでも良いし、この機会に更に工夫しても良いし、取り組みの方法は会社の理念との関係も含め検討してみることに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民家が遠いため、地域の自治会等には参加していない。地域との交流はコミュニティセンターの行事等を通して行っている。	○	地元との交流はグループホームの立地環境から民家が遠く制約ある中で職員が努力されていることは理解できる。今一歩踏み込んで地元組織である自治会(町内会)に参加しグループホームの理解につなげていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についてはその意義の大切さを踏まえ評価状況を社長まであげると共に「外部評価の指導箇所改善について」の会議をもって、取り組みについて検討をし改善に努力してきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で指摘を受けた中で、「グループホームは地域の人々に守られていることが多い、特に火災等において」の意見によって消防や警察への協力をお願いしたところである。推進会議は3ヶ月に1回程度開催している。	○	会議の開催回数がもう少し多くても良いと考えられるし、記録はできるだけ詳しく取って保管しておくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	第3セクターの株式会社のグループホームとして行政担当課との連携は常にとっている。必要なことは双方相まって学習することになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1～2回家族が来訪された折の会話、広報「ゆうあいだより」、行事連絡、健康状態の報告の電話、等々いろいろな方法で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や年3回の家族も参加する行事の時などに直接意見を求めている。また、運営推進委員会もその機会になる。例えば本人の自立のため食事介助をしないでほしいとの家族の要望を受けスタッフで検討し見守り支援をすることとしたなど。(個人的例で運営とは若干異なるが。)		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	会社内の異動の場合、管理者から上部にグループホームに適した人材を希望すると共に異動対象者は社長命で事前にコミュニケーションを取り、馴染みを深めるよう努力することを求めているし、必要な学習にも努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の方針として職員の研修は全面的にバックアップすることになっている。従って、研修体制は確立され研修の機会は確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が主催する研修の場を中心に同業者との交流研修や学習が多い。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーのアドバイスもあり、現在入居している利用者が昨年の入居前2回にわたって当ホームを訪れ実際の状況に接しながら自分で入居を決定していたことが生活記録や業務日誌に記載されていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に同じ立場で支え合う。時には人生の先輩として入居者からスタッフが学ぶ、例えば調理とか夏場の畑仕事等々、良き人間関係の維持に留意するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやサービス計画作成時及び年3回の家族参加行事等の機会を利用し、本人や家族の意向を把握する努力をすると共に月2回のケア会議を通して一人ひとりの願いや意向の状況をその都度検討し共有しつつケアに結び付けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の場はもちろん、あらゆる機会に本人や家族、関係者の意向、意見を踏まえながらチームで検討する中で介護計画は作成されている。例えば外部評価項目8で記述したのはその1例である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは原則3ヶ月に1回で実施しているが体調や体力の変化、日常生活の変化等々が生じた場合に本人・家族などと相談しながら月2回のケア会議などでも検討しながら現状に即した見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要望で水木だんご作り等、季節の地域伝統行事を取り入れるとか、ボランティア団体からの活動受け入れ、小学校からのニーズがあつて事業所として福祉の立場からお話等をしてきた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医は隣接する県立一戸病院にお世話になっているし、協力医療機関でもあることから、本人と家族の希望を大切に、一戸病院との連携を密にし適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望する限り終末期まで介護したい。実際には終末期への対応として一戸病院との連携を中心としたマニュアルをスタッフは共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理と保護については取り扱いに慎重であらねばならないことを職員全員が共有している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの性格とか願いを大切に、その人にとってどんな生活が、自分らしいのかを踏まえながら自然の姿とあり方を大切にするように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	通常栄養士のメニューで献立するが、一人ひとりの体調によって内容や量を工夫する。日曜日には利用者の希望による献立にしている。食欲をそそるために盛り付けの工夫もしている。食事支援をする職員、食事準備と片付けの利用者も見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は13時から16時に設定しており、この中で希望によって入浴することとしているが、現実には希望を示せない利用者が多い。職員が声掛けをし、タイミングを逃さない工夫をしている。バイタルチェックで入浴の可否の支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自己実現の要求を理解し、会話の中で共感と信頼関係を持ち、それぞれの特性を活かし、畑仕事、縫い物、折り紙、カレンダー作り、楽器と歌等々、いろいろな事から取り組みを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	福祉センターの敷地を散歩する利用者、出来る利用者は3人である。したがって、日常的な外出となると難しい面も現実なので、1ヶ月に一回バスハイクを企画し実施している。また、買物にも車に同乗して行く機会をもっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けない。鍵を掛けず無断外出を防ぐため、職員の見守り、各個室ごとに出入り口にセンサーを設置、玄関にセンサーを設置、福祉センター事業所に緊急の連絡網を設けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・警察の協力を要請。緊急連絡図を作成。年2回の避難訓練などに取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立表によって栄養摂取量の目安がつかうと共に、毎食ごとに食事と水分摂取状況を個人ごとにチェック表にまとめ、一人ひとりの支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に続く談話室が配置され、ゆったりしたスペースの中に天窓からの採光もよく、全体に清潔でみんなが早く集う空間と個々人が自由に過ごせる空間も確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が使い慣れた物、馴染みの物を持ち込んで自由にレイアウトして使用している。また各個室にはトイレと洗面所が設置されている。		